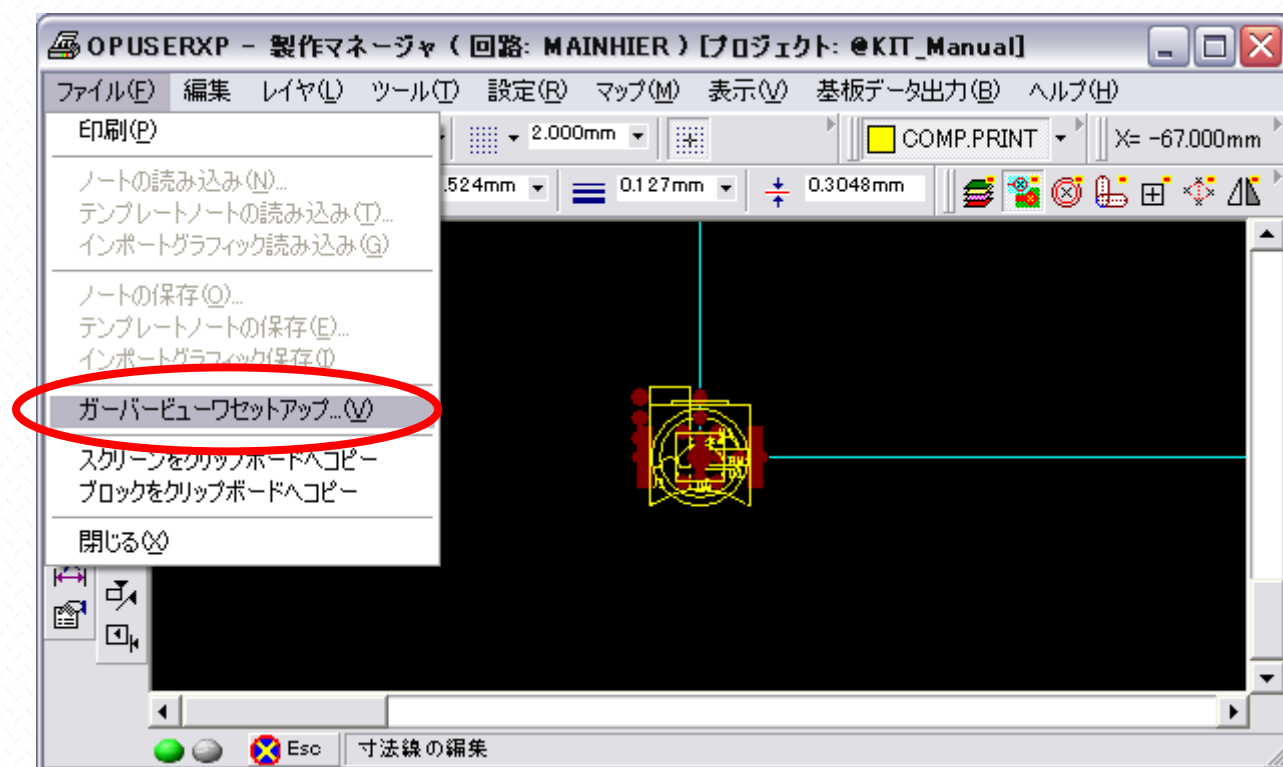


I. レイアウトデータインポート

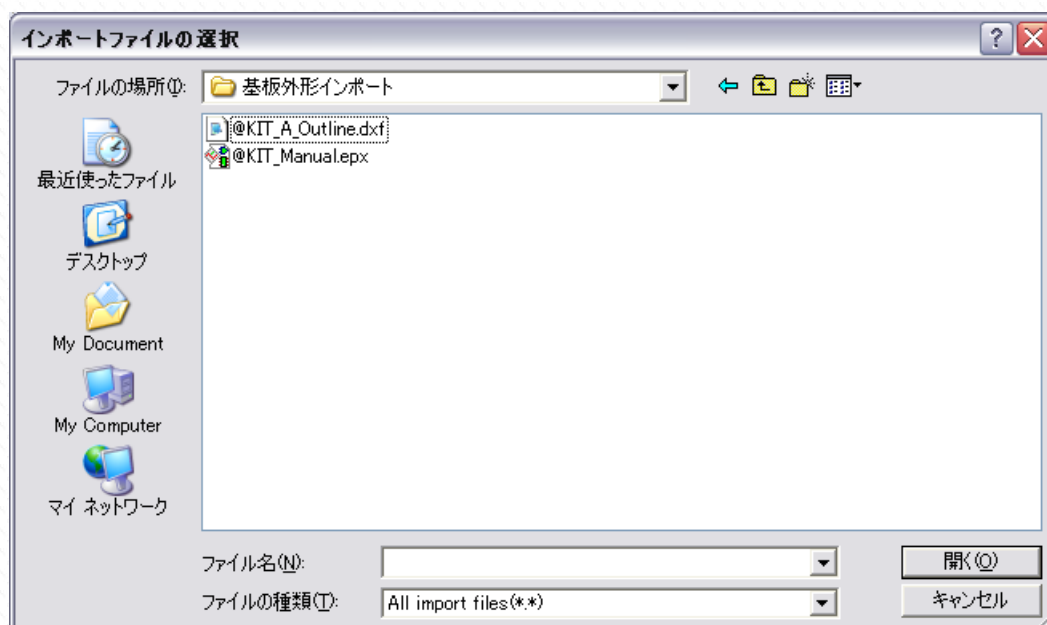
OPUSER では DXF やガーバーデータをインポートして、レイアウトデータとして使用することが出来ます。

1.0 : DXF を基板外形線として使用

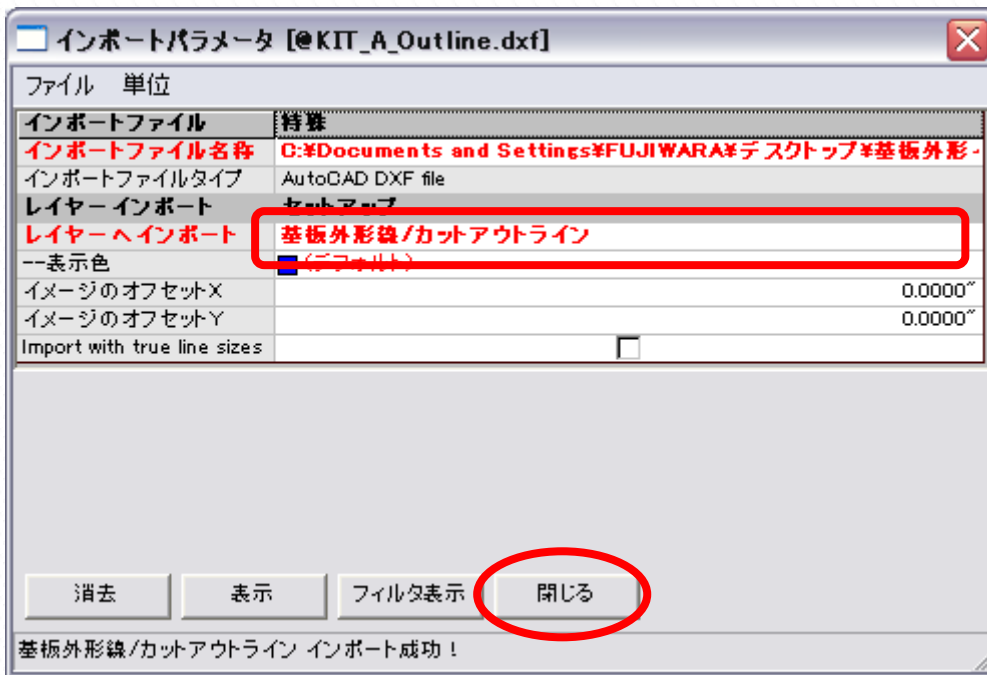
AutoCADDXF ファイルをインポートして基板外形として使用します。製作マネージャ “ファイル/ガーバービューワセットアップ” を選択します。



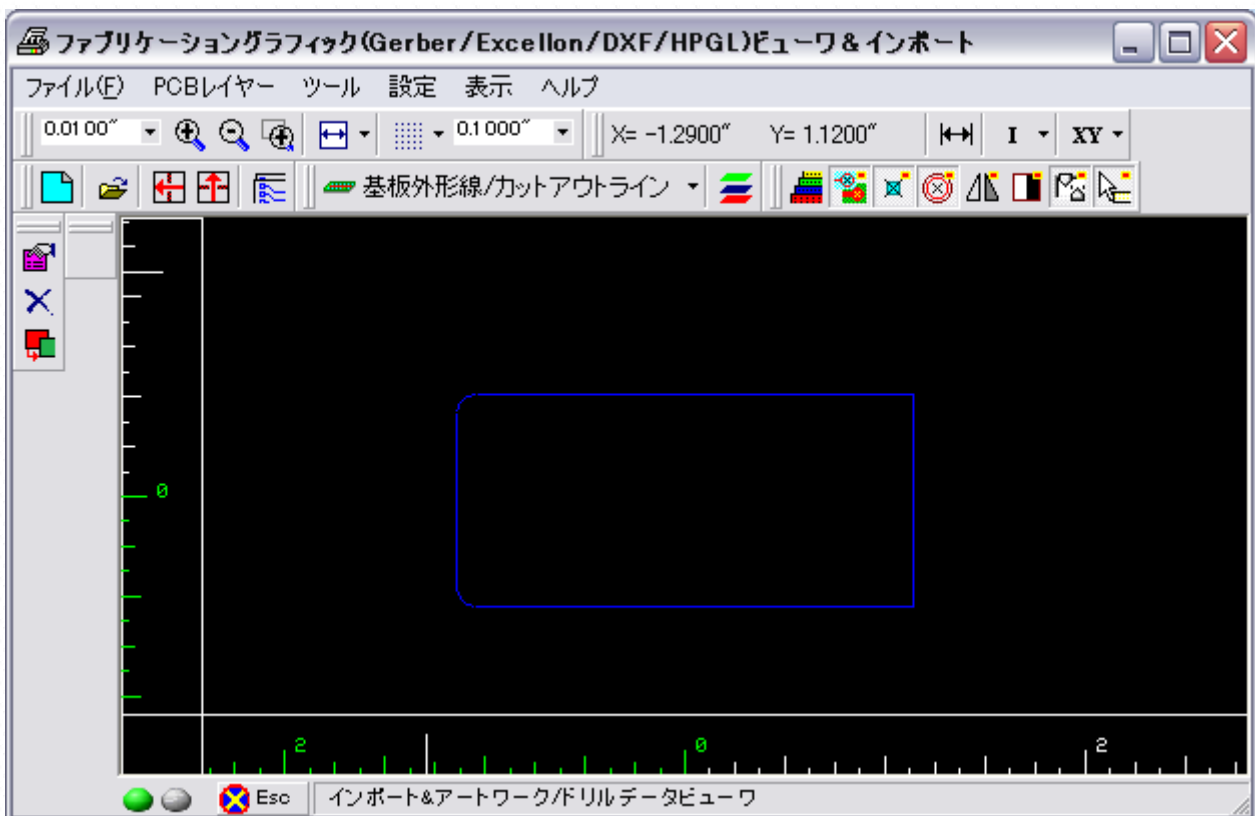
新しくウィンドウが起動され、インポートファイルの選択画面が表示されます。ここで目的の DXF ファイルを選択します



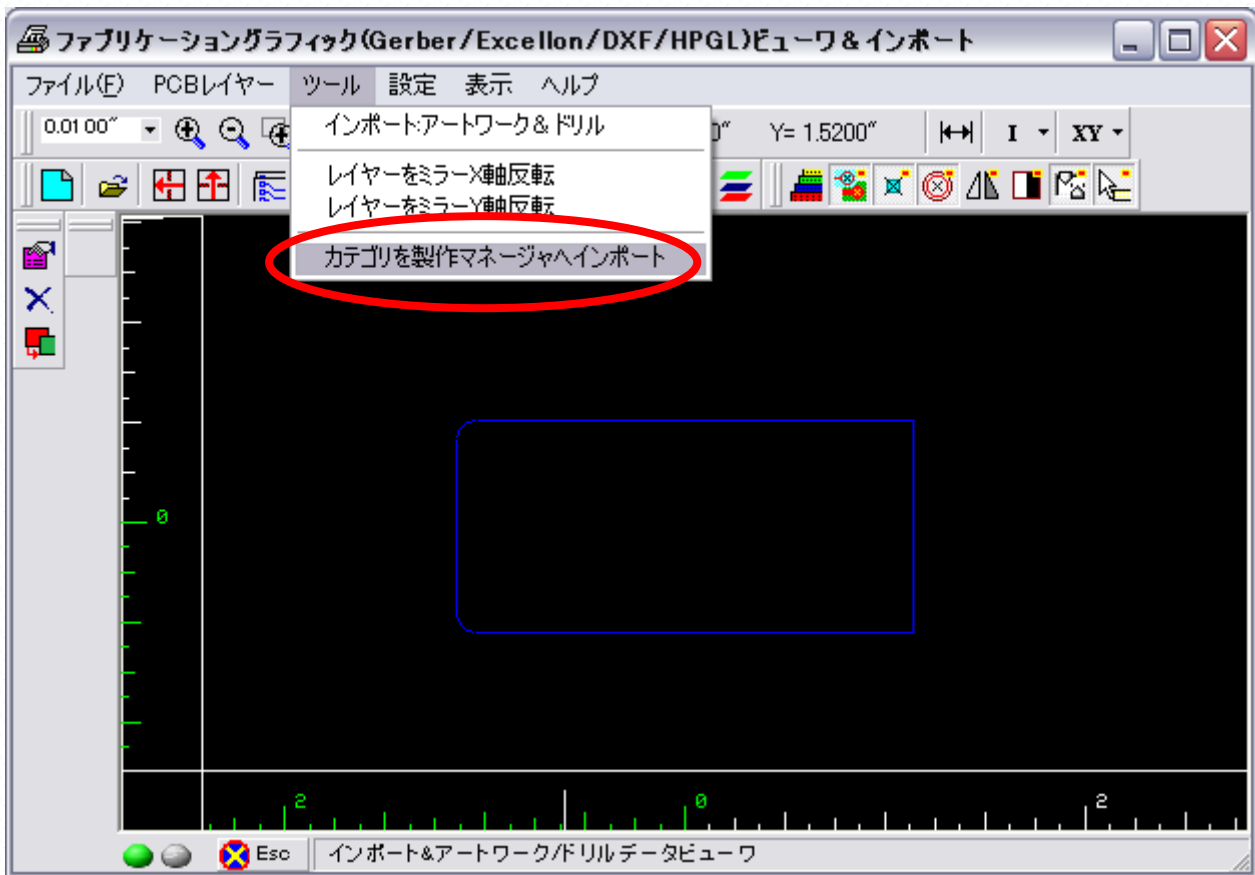
ファイルを選択するとインポートパラメータが表示されます。インポートのレイヤーを確認し閉じるをクリックします。



ファブリケーショングラフィックにインポートされた DXF ファイル（基板外形として使用予定）が表示されます



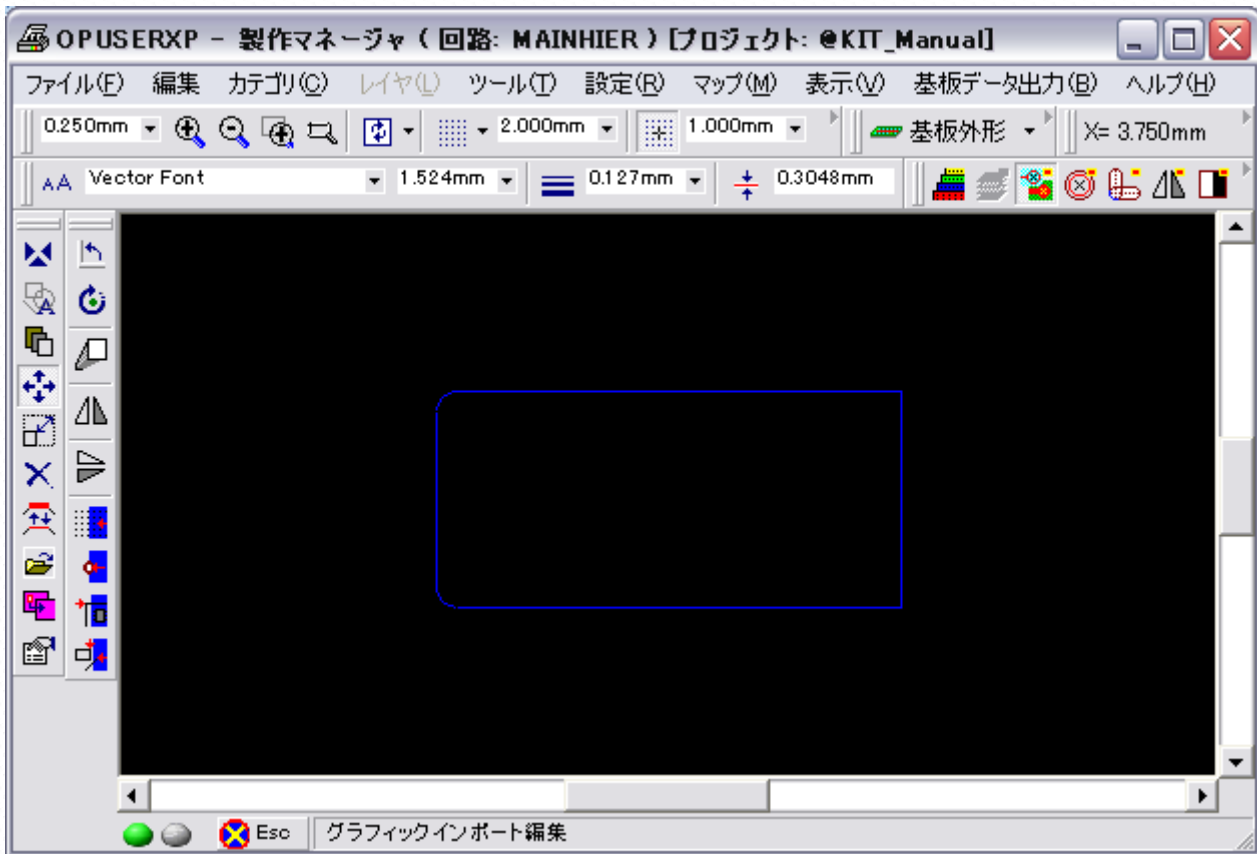
カテゴリを“製作マネージャヘインポート”をクリック



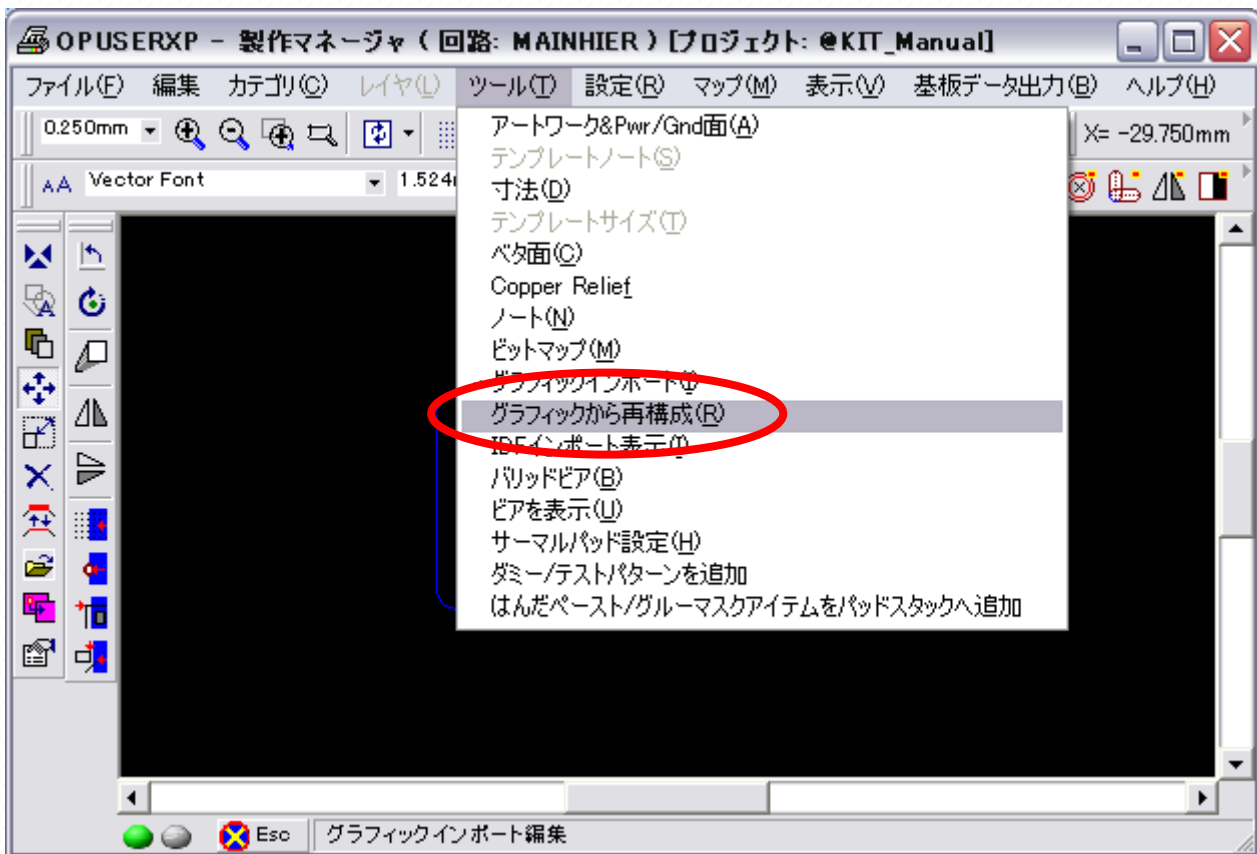
通常はそのまま承認をクリックします



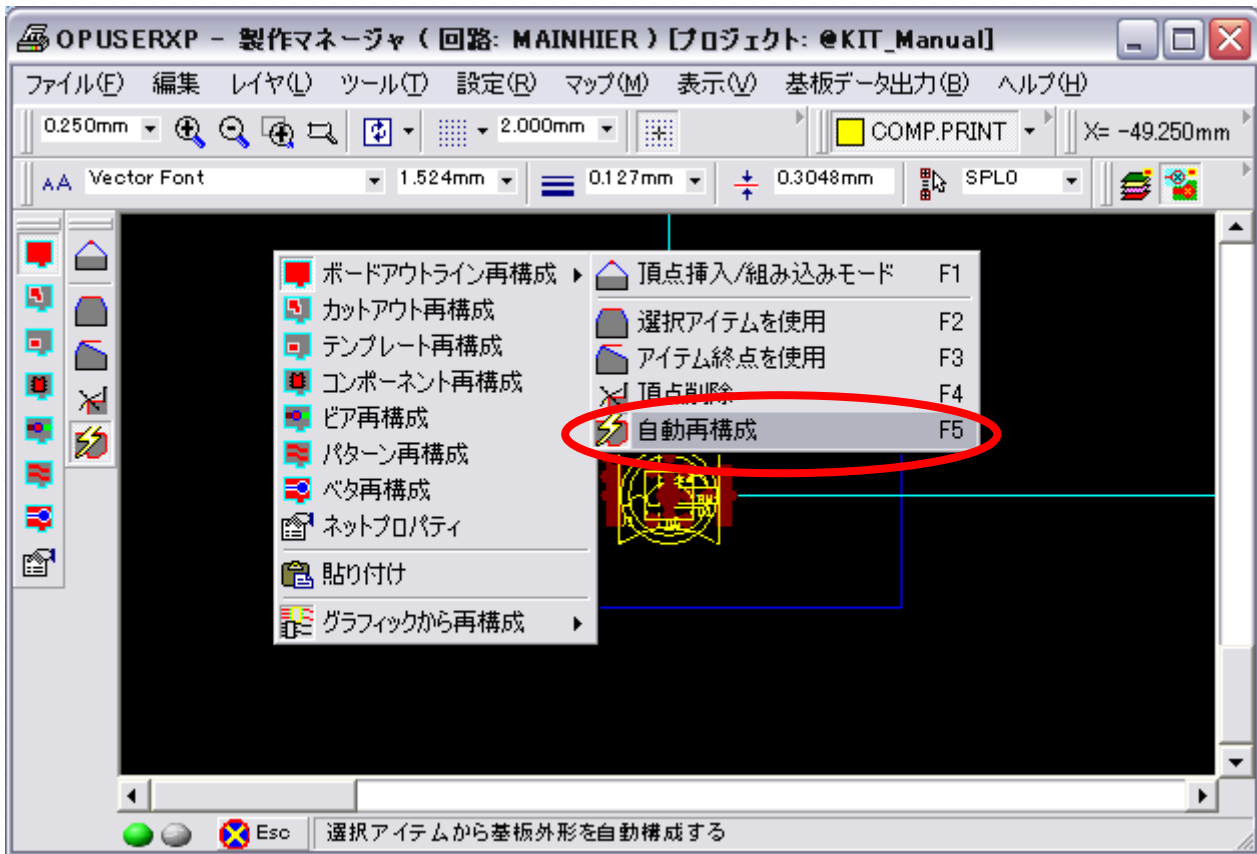
製作マネージャに外形がインポートされます



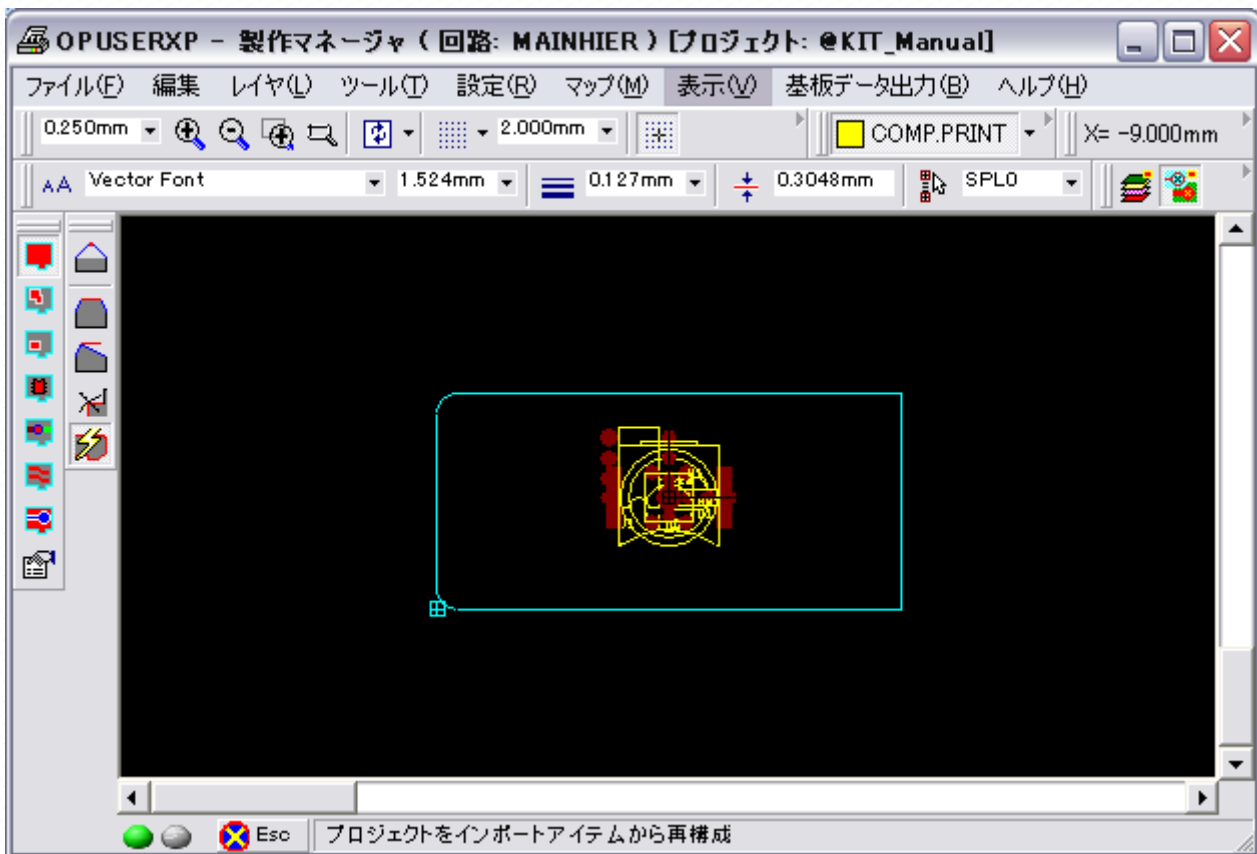
ツールから“グラフィックから再構成”を選択



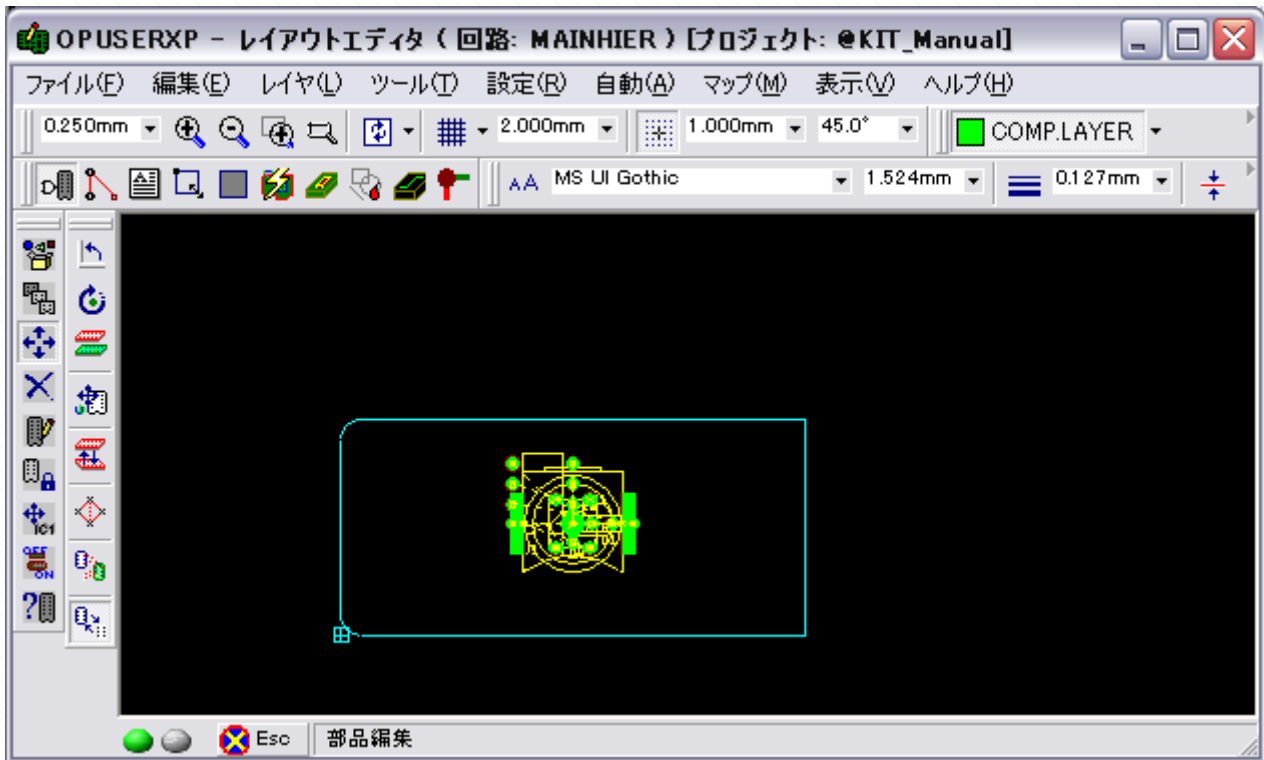
ボードアウトライン再構成“自動再構成”を選択し、インポートされている基板外形をクリックします



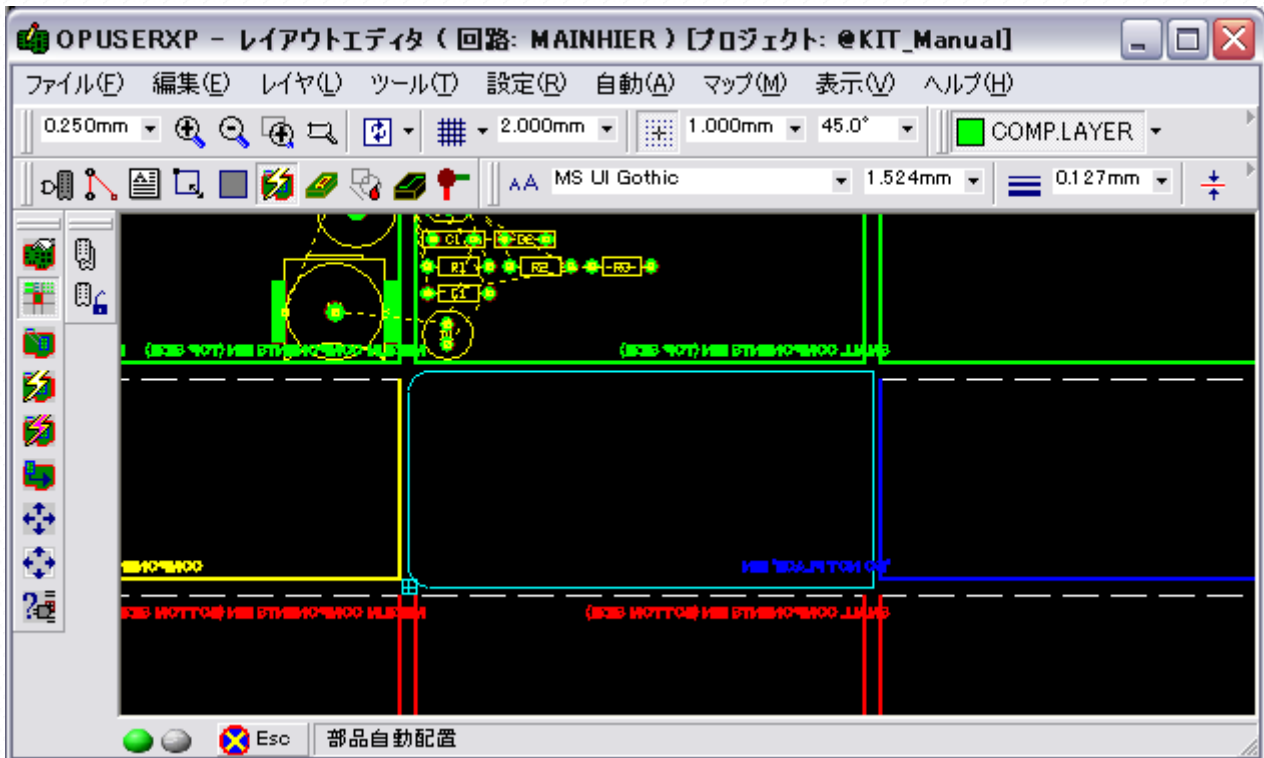
読み込まれている基板外形線に合わせて“OPUSERでの基板外形線”が重ねあわされます。



レイアウトエディタを開き作業を続けます。他ウィンドウ“製作マネージャ”“ファブリケーションビューワ”は閉じて構いません。



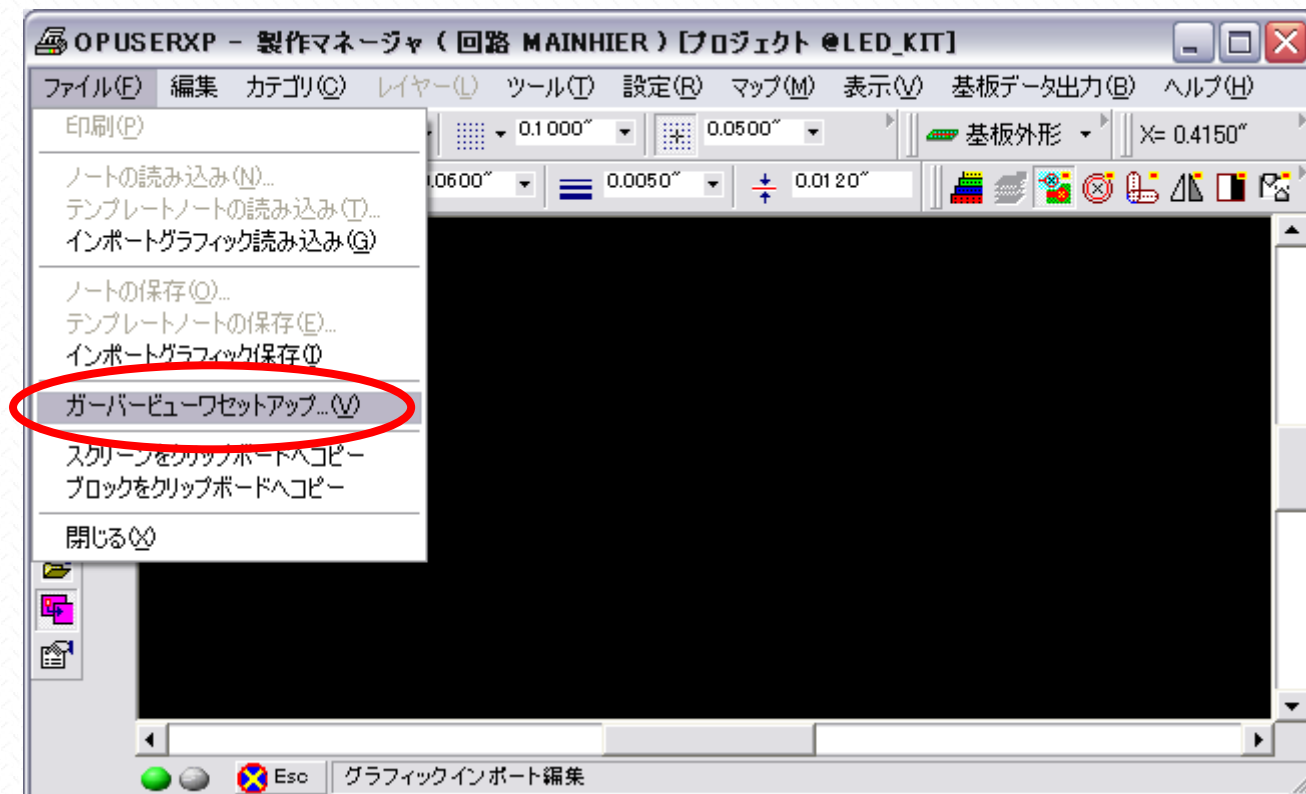
部品の配置等の編集へ移ります。



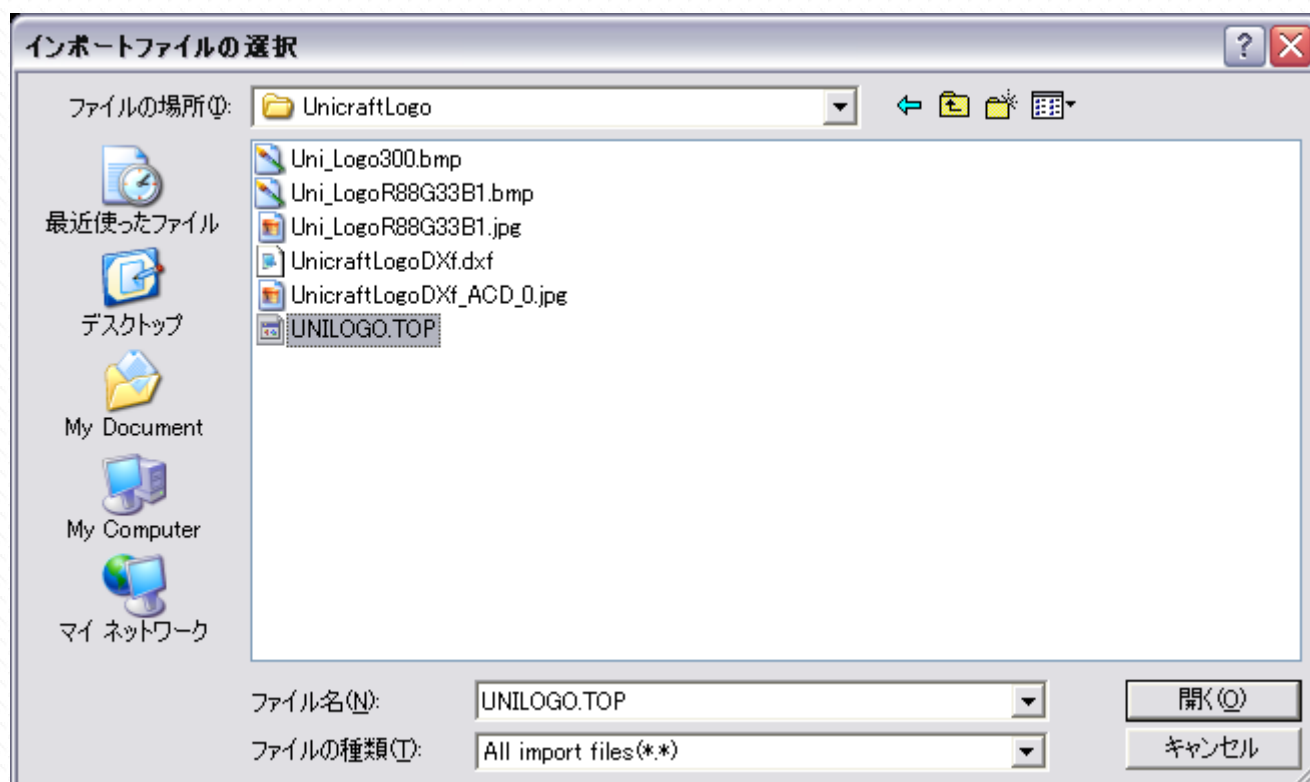
2.0 : ガーバーデータインポート

インポートしたガーバーデータはパターン、部品外形等に使用できますが、ここではロゴをベタメンへと配置する手順を記載します

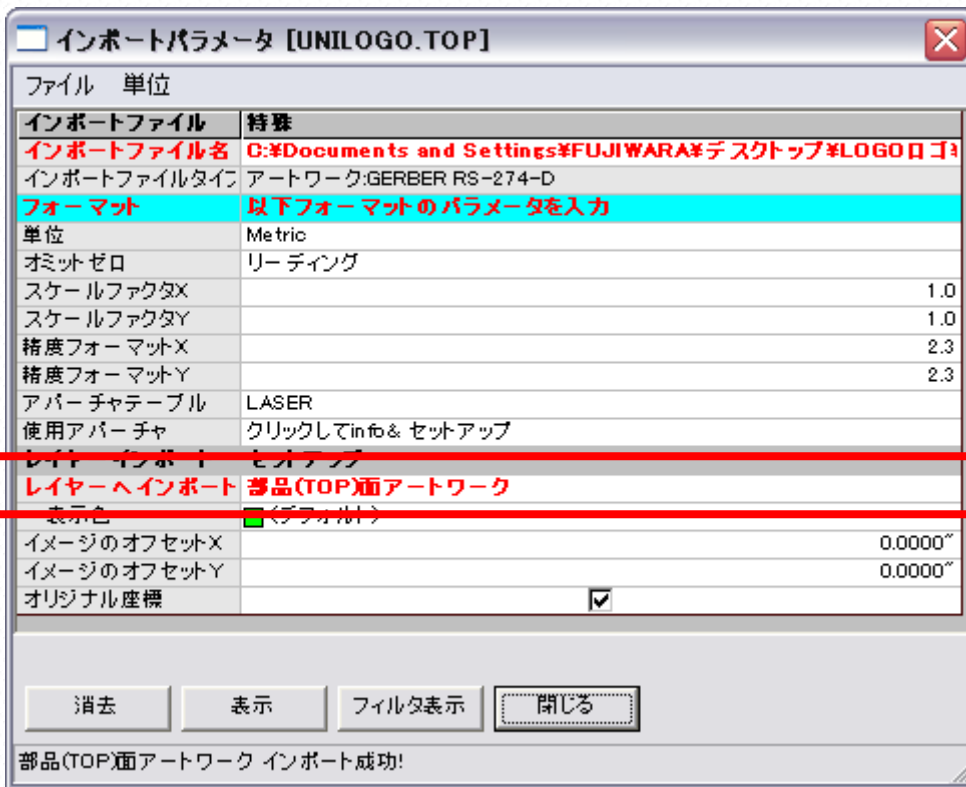
製作マネージャ “ファイル/ガーバービューワセットアップ” を選択します。



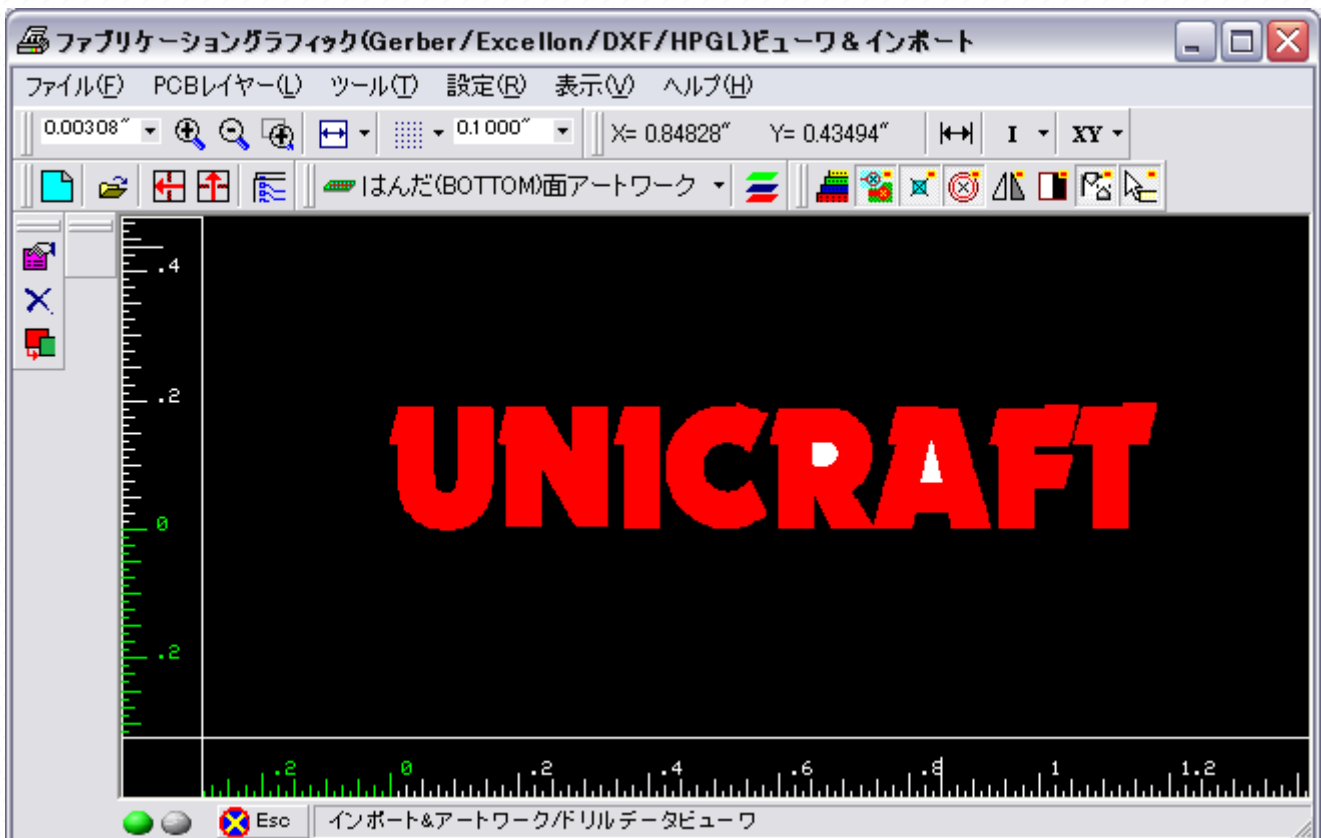
ロゴのガーバーファイルを選択します



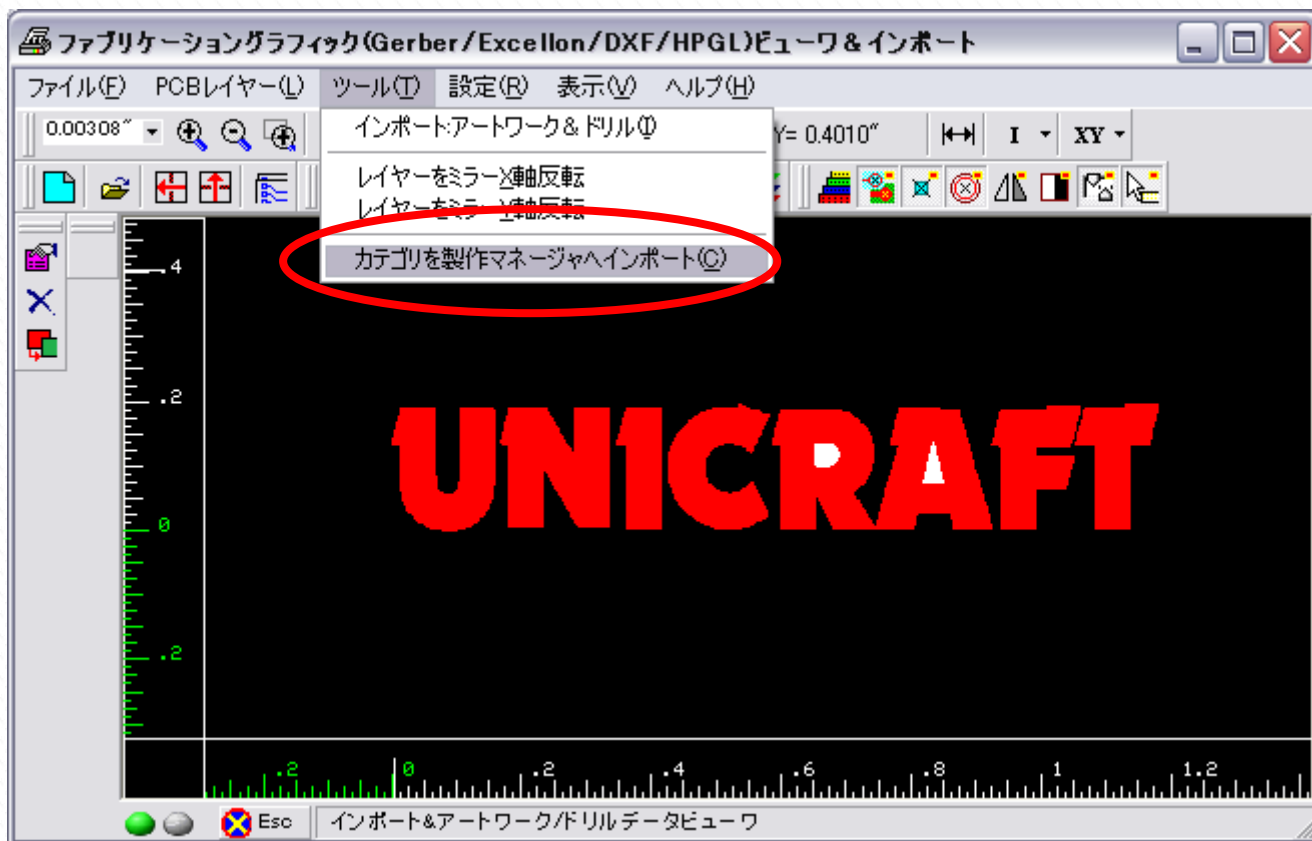
今回ははんだ面へとデータをインポートします



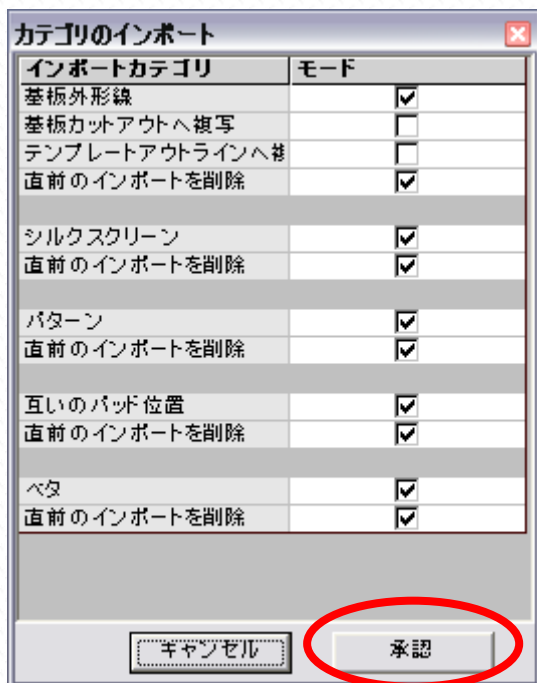
インポートされたデータが表示されます。ここでははんだ面へ文字を挿入する為、文字が読める状態だと出来上がりの際、文字が反転してしまうので、後ほど文字を反転移動させる事を忘れないでください。



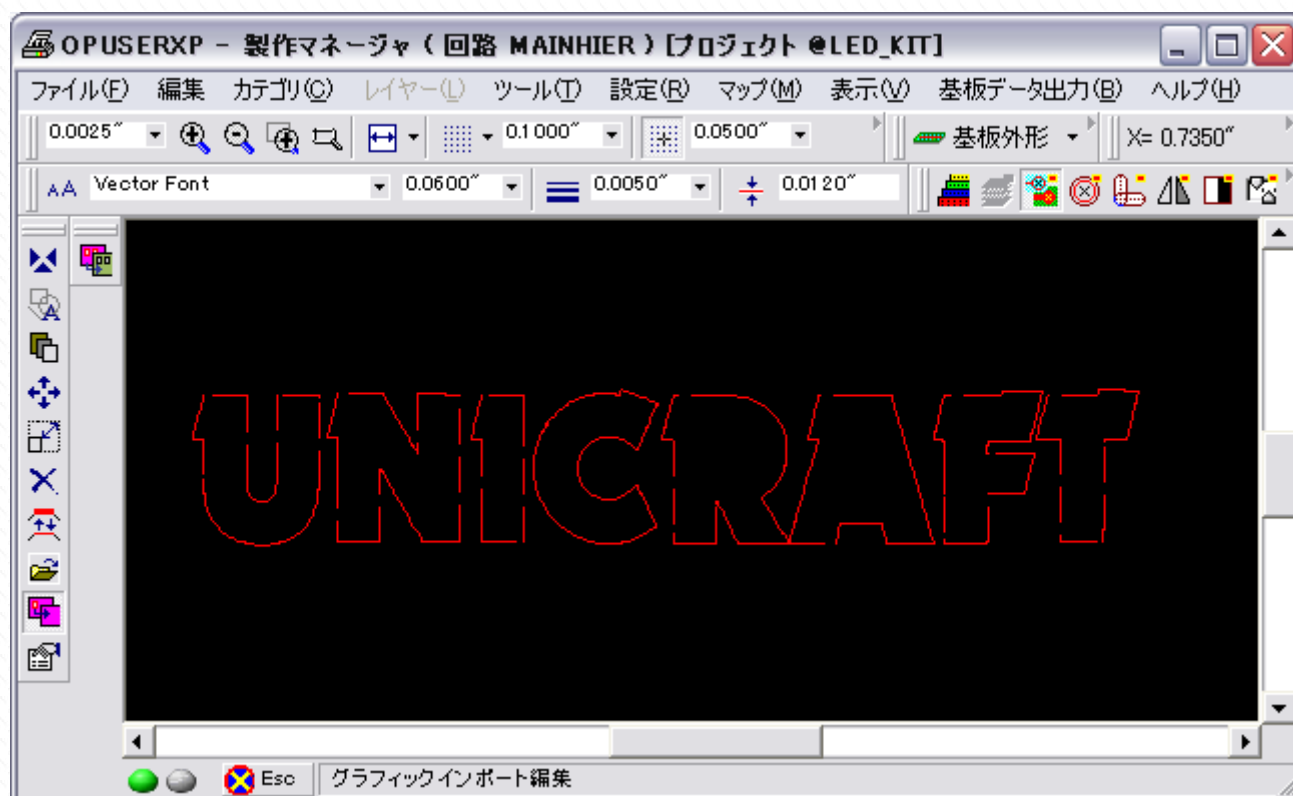
ツール/カテゴリを製作マネージャへインポートを選択します



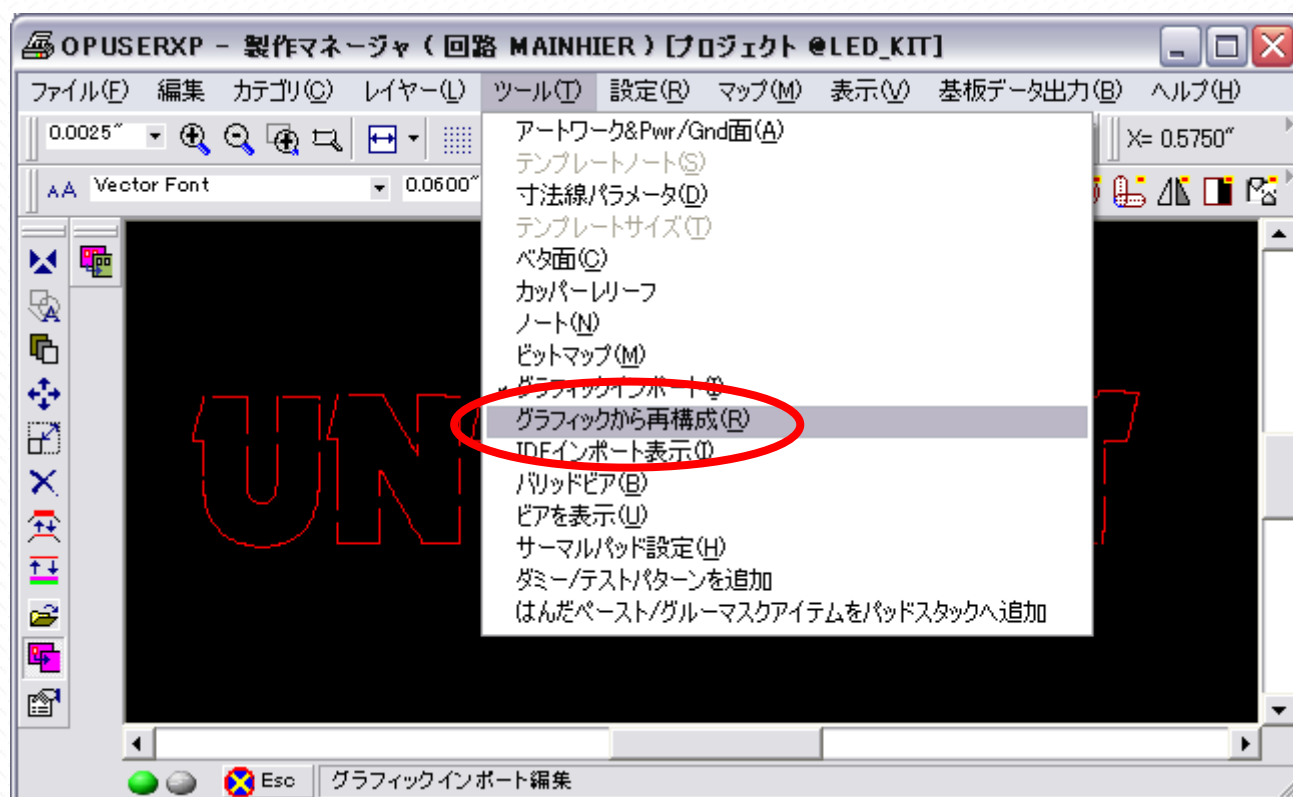
通常はこのまま“承認”をクリックします



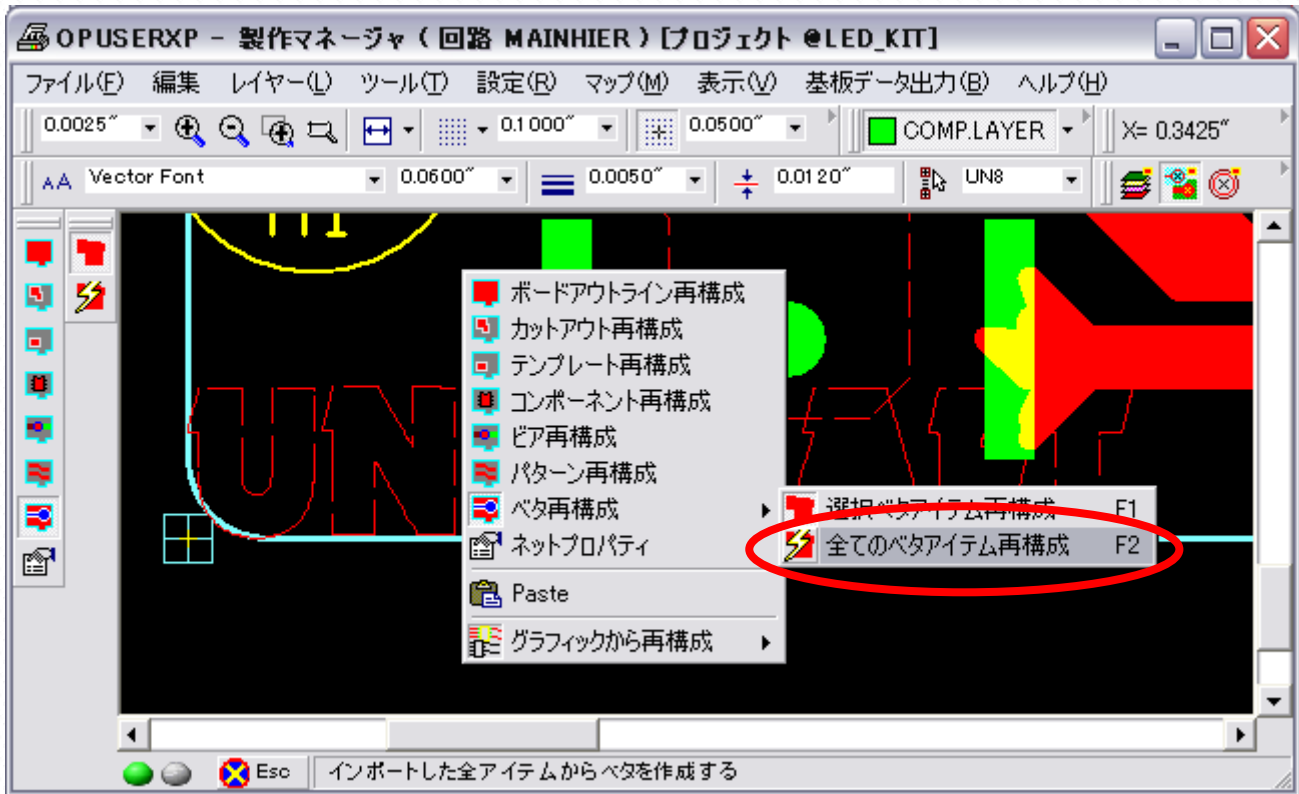
この文字はポリゴンで描画されている為、ベタ領域と同じ、輪郭線が点線で描画されます



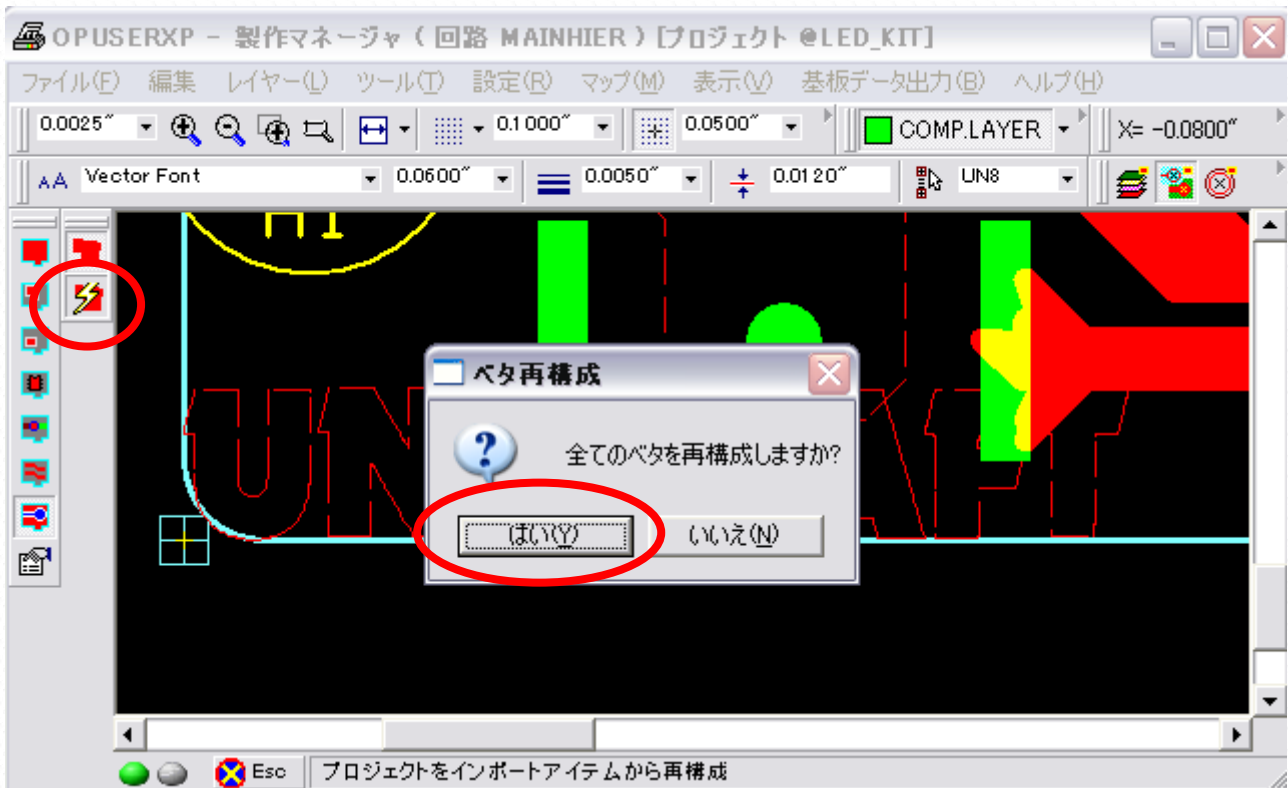
ツール/グラフィックから再構成を選択



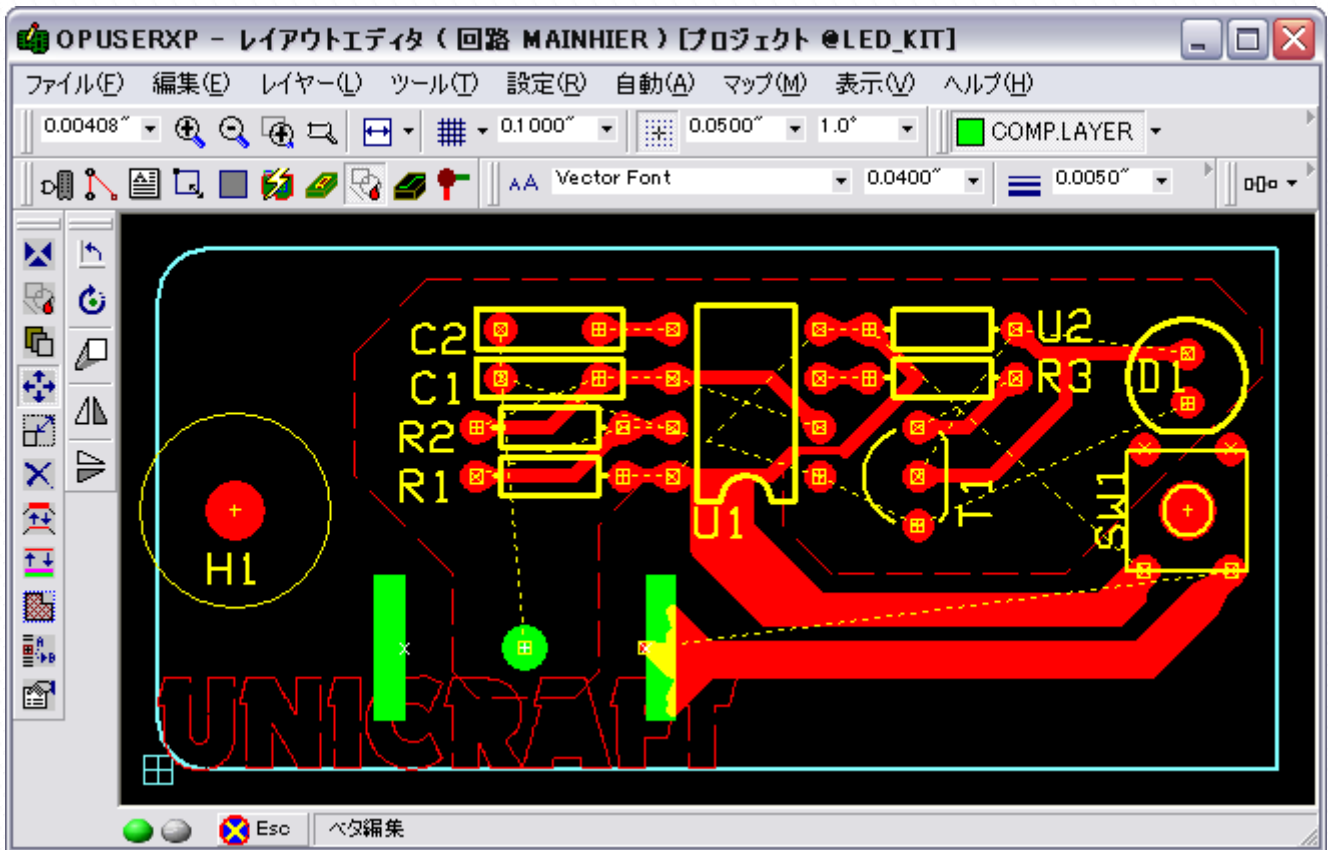
操作画面上で右クリックし“全てのベタアイテム再構成”を選択します



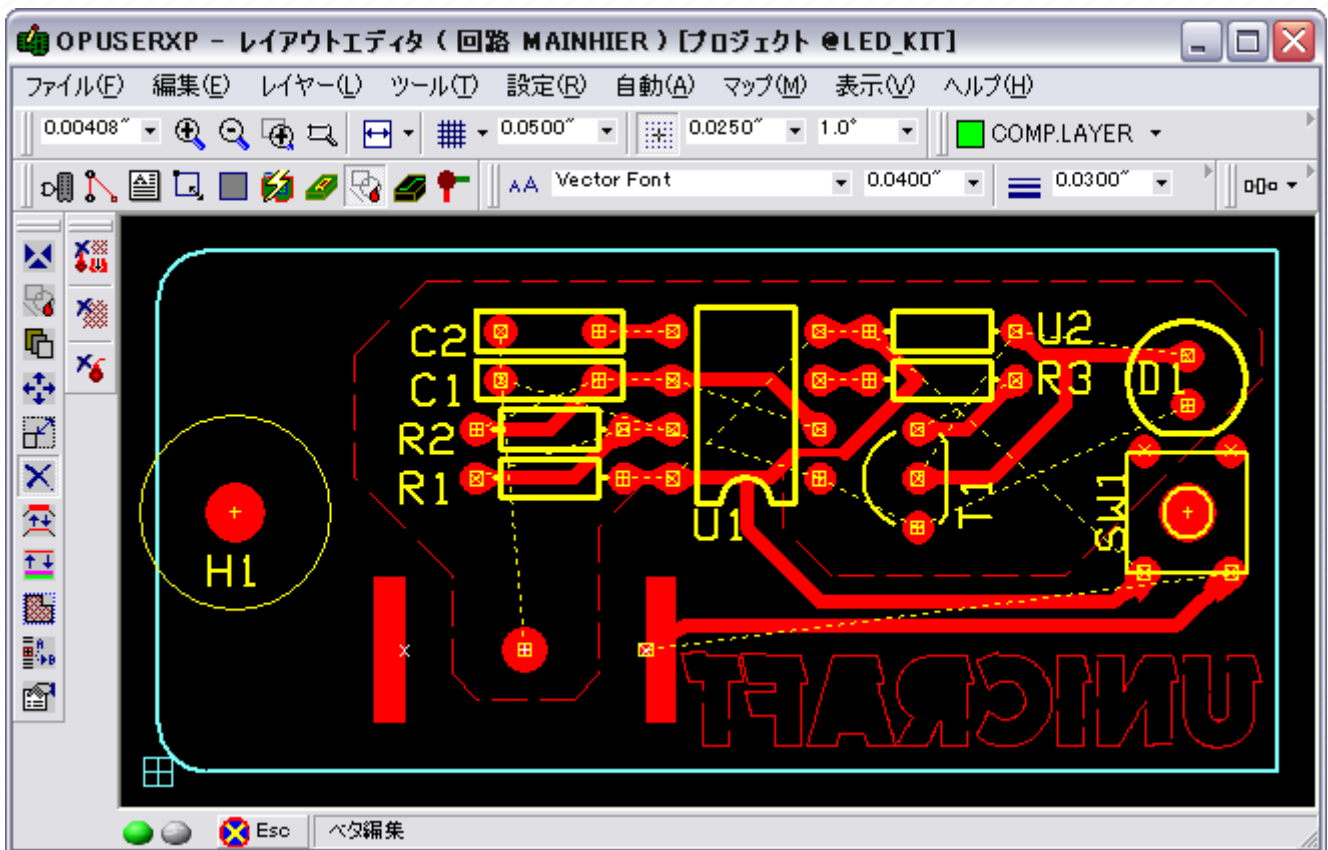
全てのベタアイテムを再構成を選択、“はい”をクリックします



レイアウトエディタへ戻ると、文字がベタメンとして配置されています。



必要であればパターンの変更し、文字の位置を修正します。



製作マネージャでアートワークを確認すると、下図のように表示されます

